
そこにある幸せ

K T E

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

そこにある幸せ

【Nコード】

N8388H

【作者名】

KTE

【あらすじ】

智也と千恵、二人の短い物語り。ただ、短い話の中にも二人の恋心をたくさん詰め込んでみました。軽い気持ちでほんのり見てください。

⌋
⋮
⌋

「…ねえ、智くん…」

⌋
⋮
⌋

「…ちょっと、話ぐらい聞いてってば!」

⌈
⋮
⌋

「無視しないでよ、智也ともや!!!!」

「あー!!! ウルセー!!!」

せつかく勉強に集中してたのに、目の前で騒がれたらたまつたもんじゃないぞ！

だいたい、この女は俺の事情をちゃんと理解していないんじゃないか？

…よし、先にハッキリさせておこう…

俺は勉強していた机から立ち上がり、真後ろにいる幼なじみに話しかける。

「おい、千恵^{ちえ}！」

「あ、やっと話してくれた。なぐに、智くん？」

「…今、俺が何をしてるかわかるか？」

「うん、わかるよ。月曜日の追試の勉強でしょ？」

「そう、追試だ。そこまで確認すりゃわかるよな？」

「？………わかんないんだけど？」

「次のテストは落とせないから、この週末は勉強の邪魔すんじゃないかねっつーんだよ……！！！！！」

俺は大きな声で、千恵に怒鳴り込んだ。

当然と言えば当然だ。さすがに追試を落とすわけにはいかんからな。

しかし、俺が土日を犠牲にして勉強してるつてのに……この女、^{アママ}両耳に指を突っ込んでそっぽ向きながら知らんぷりしてやがる……

「おい、ちゃんと聞け！ 俺が後輩になってもいいのかよ!？」

「…特に気にしませうん」

「何だと！？ 俺が後輩になったら、千恵も立場的にマズイだろう！」

「だから私、そんなの気にしないもん！ だって智くんが好きだから、追試を落として後輩になっちゃうおバカな智くんでもいいんです！！」 『I、LOVE、YOU』…おバカさんな智くんも、この意味はわかりますよね？ ね！？」

ち、チクシヨウ…そこまで堂々と言われたら、照れちまうじゃねーか…

グイツと千恵の顔が近づくのを感じ、俺はすぐに自分の机に戻った。

もちろん、恥ずかしかったからである。それ以外に理由はない。

まったく…千恵の存在って、軽い犯罪だよ…

千恵は細つちいのに、出るところ出てるし…顔立ちもカワイイし、勉学も律義にこなすもんだから、もう完璧。パーフェクトでしょうよ。それにいつの間やら、生徒会長なんていう地位まで任せられてるわけで、毎試験赤点常連の俺が幼なじみになれたのは、いわゆる奇跡ってやつだな。うん、神に感謝。

そんな千恵に告白された時は、マジで意識がとびそうになったんだよなあ…いや、あれはすんげー可愛かった。

『小さい時から、智くんが大好きです！　こんな私で良ければ、彼女にしてください！！！！』

………潤んだ瞳で、見つめてんじゃねーよ…失神しちまうぞ、コラ。

顔を真っ赤にして震える千恵に、俺は返事をする前に抱き着いちまっつてさ…今になって考えたら、俺の方が犯罪者だな。

ちなみに、『こんな私で』って言われたことに、むしろこんな俺でいいのかと聞き返したら、千恵はどう答えたと思う？

『…だって智くん、私をお嫁さんにしてくれるんでしょう？ 幼稚園から、ずっつと楽しみにしてるもん…エヘッ』

グハッ！？ こ、こいつはなんて強力な一撃を………頼む、その照れ笑いはやめてくれ！ 殺す気がっ！

そりゃ俺だって千恵との約束を忘れるわけがないけど、まさか千恵が覚えてるだけじゃなく楽しみにまでしてるとは…

胸の奥から込み上げてきた感情を押さえられなくなった俺は、千恵に一言『ごめん！』と謝って、千恵の唇に口を押しつけた。

まあ、あの時のキスから俺たちは《すてでい》な関係（英語苦手）

になっただけども…

「トゝモくゝん！ 私、さゝみゝしゝいゝ！！！」

「ダーツ！？ 少しは静かにしてろ！」

「やゝだゝ！ 智くんと、キスしたいんだもゝん！」

「お願いだから今は勘弁してくれ。追試をクリアしたら、千恵の言う通りにするから、な？」

「ムリ！ 智くんが勉強してる姿ってカッコイイんだから、私は、もう、我慢の限界なの！！！！！」

千恵はかなり興奮しながら、床をドンドンと踏み鳴らしてる。マタドールを前にした闘牛みたいで、ちよつと面白い。

…とか冗談言ってる場合じゃねえ！ さっきから勉強がまるで進んでねえぞ！

ハッキリ言おう。千恵の彼氏になってから、少し痩せた気がする。多分、千恵のラブラブ病が原因だ。

ただの幼なじみの時から普通に腕を組んだり、お弁当は千恵が作ってくれたりしてたもんだから、彼氏彼女にランクアップしてからはもう大変。

朝から晩までベタベタ引っ付いて…5秒と会話が途切れたら、上目使いで…『キスしてくれなきゃ泣いちゃうぞ?』…とか可愛く脅すし…

つまりアレだ。千恵って頭は良いけど、男女関係に関してはリミッターが外れるのだ。

今のところ、まだ一線は越えてないが…近いうちに、襲われてしまうかもしれないな…

「ね、お願い? たった一回のちゅゝで、こんなカワイイ彼女を幸せに出来るんだよ?」

「…………この嘘つきが。今まで、一回で終わった試しがないだろ!俺が何回、騙されたと思ってんだ!!!!」

「うう、そ、それはね…エヘヘ」

「ごまかしてんじゃねー!」

「…そんなこと言って、智くんも騙されてるってわかってて毎回キスしてくれるじゃん…優しいね、智くん。大好き!」

くっ、こいつ…急に抱き着くんじゃねーよ、拒めないだろ…

なんだかんだ言っても、こんな俺をギュッと抱きしめてくれる女は、千恵一人なわけで。

他にも色々と言いたい事があるけれど、しっかりしてて周りからの信頼もあるこの女は、俺の前でだけはわがままな可愛い女の子なわけ。

…結局のところ、千恵は俺の……………

未だに抱き着いたままの千恵に、問いかける。

「なあ、千恵」

「な〜に、智くん？」

「本当に、ホント〜に、一回だけでいいんだな？」

「…それを私に聞くの？…智くんのイジワル」

「しょうがねえな…ほら、『一回』だけだぞ？」

ちよつとだけ目を見つめ合い、『俺も好きだよ』と声には出さずに…千恵の口に直に伝えていく。

…キスだけで嬉しそうな顔しやがって……………って、俺も満更じゃないけどな…

それから、二桁を超えるキスのせいで…その日、
追試の勉強は出来
ませんでした。

…お話は続く、かも？

（後書き）

はい、作者です。

次回作のやる気

に繋がるので、感想など簡単にでも書いてもらえるとありがたいです。

では、また次回の作品で…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8388h/>

そこにある幸せ

2010年10月28日07時13分発行